

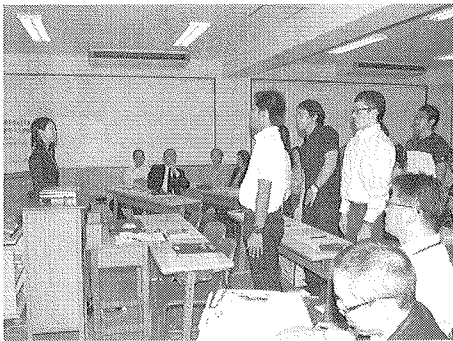
## 府教委指導主事と進学塾講師が協働

### 府立佐野高校の校内研修

大阪府立佐野高等学校（泉佐野市市場東、山田勝治校長）は十月九日（木）、「学習する空間づくり～生徒のやる気を引き出し、生徒に火をつける授業メソッドとは」をテーマに校内研修会を開いた。今年度第二回の校内研修会で、約八〇人の教員が参加した。

初めに、大阪府教育センター教育企画部企画室の端村誠指導主事が「言語活動とアクティブ・ラーニング」と題して話した。学校現場で主体的な人材育成をめざした学習方法として注目されている「アクティブ・ラーニング」は、授業者が一方的に知識伝達する講義スタイルではなく、課題研究や、ディスカッション、プレゼンテーションなど、生徒の能動的でしかも双方向な学びを取り入れた授業形態。

端村指導主事は、「学力」の要素を分析したうえで、「アクティブ・ラーニングはどのような授業をめざすのか」「言語活動の充実」について話を進めた。このあと、大手進学塾・早稲田アカデミーの教師力養成塾（教師力養成塾e！講座）チーフイ



ンストラクターの牛嶋孝輔氏が「授業開きのヒント！」「伝える」から「伝わる」へ」と題してアクティブな研修会を行った。牛嶋氏は「授業は始まりの三分で決まる！」「生徒から見た教師の第一印象で勝負が決まる」など、インパクトのあるフ



リーズで切り出した。授業の冒頭でまず大切なのが「教師が明るく元気に、心をこめて『本気』で行う挨拶や号令」で、「授業に臨む生徒の『本気』にスイッチを入れる」と強調。授業に臨むための重要な基本動作のポイントである「①挨拶②視線③単指示」について実演を交えて解説した。

このあと、同校新任教員の小杉直人教諭と岡本佳子教諭の二人が担当の保健、国語科で「授業導入の五分間」をロールプレイで実施。これを受けて牛嶋氏は「板書の書き方にはコツがある」「研究授業では緊張するが、動じないようにするには準備しかない」「自分の声が教室の後

ろまで届いているか、確かめることが大事だ」など、生徒を学ぶ姿勢に導くための授業メソッドをアドバイスした。

参加した教員らは、「初心を忘れてはいけないということ、思い出した」「長くやることで身につけてしまったことを振り返ることができた」などと感想を述べていた。

同校では、昨年度から学校改革を進めており、指導体制の改変によって今年度は昨年度比で遅刻を六〇％削減するなど実績が上がりつつある。山田校長は「アクティブ・ラーニングなどの取り組みが今後必要となってくる。そのときに、学ぶ姿勢づくりや教室の空間づくりも取り入れながら、授業全般の再構成が必要となる。今回のような新たな授業づくりの研修がきつと主流となり、学校改善につながる」と確信している。学校や教師の取り組みが変われば、生徒が集団として変わってくる実感があり、今後も外部の教育力を取り入れた研修を進めていきたい」と意欲を述べている。